Kyoto Institute for Regional Prospects
KIRP

NEWS LETTER No14

2019

米国ポートランド州立大学公共サービス研究・実践センター（CPS）との
京都府公立大学法人国際化支援事業

2019年度連続自治体特別企画セミナー
「SDGsでまちの未来をつくる」開催報告

今年度の共通テーマは「SDGsでまちの未来をつくる」であり、急速な広がりをみせるSDGs（持続可能な開発目標）であるが、一方で、どのように自治体運営や企業活動、社会課題の解決に活かしていったらいいのかわからないという悩みも聞かれるようになってきました。そこで、改めてSDGsの理念について学び、それぞれの業務や活動に活かすための視座を考える連続セミナーを開催してます。

第3回KIRPセミナー
「サステナブル・シティの挑戦―ポートランドの住民主体のまちづくり―」

日時：10月31日（木）14時30分～17時　　参加者：85名
西芝 雅美氏（ポートランド州立大学ハットフィールド行政大学院、行政学部長、教授）
森本 健次氏（株式会社 南山城 代表取締役社長、元京都府南山城村職員）
高坂 博子氏（静岡県富士市役所総務部防災危機管理課　防災対策担当上席主事）
CN：川勝健志（公共政策学部教授・センター副統括マネージャー）

第3回KIRPセミナーは、昨年、本センターと国際交流協定を締結した米国ポートランド州立大学向上サービス実践・研究センター（Center for Public Service: 以下、CPS）から副センター長の西芝雅美教授をお招きし、2019年10月31日に京都府公立大学法人国際化支援事業として開催した。前半の第一部では、西芝教授から「サステイナブルシティの挑戦―ポートランドの住民主体のまちづくり―」と題する基調講演があり、ポートランドが全米で最も住みやすいまちとして世界中から注目を浴びている背景について、SDGs（持続可能な開発目標）の2つの目標（「住み続けられるまちづくりを」、「平和と公正をすべての人に」）から見てみると、ポートランドでは国連に採択されるよりも何十年も前からその視点に立ったまちづくりが住民主体で行われてきた歴史があることをお話いただいた。

後半の第二部では、CPSが過去15年以上にもわたり、日本の自治体職員を中心に提供してきた「まちづくり人材育成プログラム（通称、JaLoGoMa）」の修了生を交えたパネルディスカッションを行った。修了生を代表してご登壇頂いた京都府南山城役場の元職員で現在、株式会社南山城代表取締役社長の森本健次氏、静岡県富士市職員の高坂博子氏からは、人材育成プログラムでの学びがその後の活動にどのように生きているのか、また活動する中で地域住民と良好な関係を築くためにどのような工夫をされているのかなど、それぞれの立場からお話いただいた。

当日は平日にもかかわらず、京都府内外から85名もの方々にご参加いただき、ポートランドの事例から住民主体のまちづくりの意義と課題について学びを共有できたことは、大変有意義であったように思います。

パネルディスカッションの様子

KIRPについて

京都地域未来創造センター（KIRP）は、京都府立大学の「知」を活かし、地域の未来を創るための拠点として発足した地域に向けた総合窓口です。協働研究、受託研究等に関するご質問、ご相談があればお気軽にお問い合わせください。

Tel & Fax : 075-703-5319
mail : kirpinfo@kpu.ac.jp
HP : http://www.kpu.ac.jp/

〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1－5
「稲盛記念会館」1階

京都府立大学
京都地域未来創造センター
KYOTO INSTITUTE FOR
REGIONAL PROSPECTS

2019年度　連続自治体特別企画セミナ「SDGsでまちの未来をつくる」開催報告

報告

第1回「SDGsと企業社会―環境と開発のジレンマを解消できるか―」

日時：8月22日（木）14時～16時　　参加者：120名
基調講演:宮本憲一氏（大阪市立大学名誉教授　元滋賀大学学長）
聞き手：川勝健志（公共政策学部教授・センター副統括マネージャー）

宮本憲一氏

四日市ぜんそくの公害訴訟で原告側代理人となるなど「戦う研究者」としても知られ、約半世紀にわたり、日本の地域経済、環境政策の研究をけん引してきた宮本憲一氏を迎えて約1時間の講演いただきました。

宮本氏からは、2030年までのSDGsの目標実現は難しいとの見通しが述べられました。そして、なぜ、SDGsが企業本位となっているのかを1970年代から歴史的にたどり、「企業本位ではなく公共政策へ転換することの重要性」が提起されました。

後半は、本学の川勝教授を聞き手に、「SDGｓの意義」に焦点を当てて、「SDGsをどのように活用するのか」、「SDGsを実現するにあたり、特に自治体において政策転換をどのように求めていくべきか」について、対談がなされ、参加者からも多くの感想が寄せられた。

「他では肯定的な紹介に留まるものが多いなかで、世界史的文脈からみたSDGsの位置付けやSDGs自体の枠組み上の課題を知ることができた」「政策矛盾を乗り越えるためには、自治体・企業・市民間の協働は最初の一歩であることが分かった」との声がありました。

第２回「SDGs推進における企業の役割」

日時：9月2日（月）14時30分～17時　　参加者：81名

「SDGsをどのように生かすか」
関　正雄氏（明治大学経営学部特任教授、損害保険ジャパン日本興亜株式会社CSR室シニア アドバイザー）

「企業と地域づくり、中小企業の視点から」
荻原 靖氏　（中小企業家同友会全国協議会専務幹事）

「若者とつくる地元企業のSDGsビジネスセレクトブック～」
松原 裕樹氏（ひろしまNPOセンター専務理事・事務局長）

コーディネーター：鈴木 暁子（京都地域未来創造センターコーディネーター）

第2回はSDGsの推進で大きな役割を期待されている企業セクターに焦点を当てました。

基調講演では、日本の産業界でCSRやSDGsを推進する関正雄氏から、グローバルな文脈でのSDGsの本質的理解についての重要性や、SDGsを企業の視点でどのように理解するかについて報告いただきました。

続くパネルは、中小企業の経営者の参加も多く、地域社会での推進役として中小企業が果たす役割について実践面から考える機会となりました。

パネルディスカッションの様子

KIRPセミナーのご案内

お知らせ

京都府立大学公共政策学部 公開講座
第４回連続自治体特別企画セミナー

「新しい総合計画と地域創生がつくる京都府の未来」
～西脇京都府知事と増田京都府立大学客員教授による講演・対談～

【日時】：12月21日（土）14:30～16:00
【場　所】京都府立大学 本館・合同会議室棟３階第３講義室
【プログラム】
講演：14:30～ 西脇　隆俊氏
　　15:00～ 増田　寛也氏(元総務大臣)
対談：15:30～ 西脇隆俊京都府知事＆増田寛也客員教授

第５回「住民自身がまちの未来を創造するために～能登SDGsラボのコトづくり・人づくり～」

【日時】12月26日（木）14:30～17:00
【場所】京都府立大学　稲盛記念会館２階２０３教室
基調講演１
「能登SDGsラボの取組～SDGsを軸としたコトづくり・人づくりのエコシステム～」
講師：永井 三岐子氏　国連大学IASいしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット事務局長
基調講演２
「住民参加型で、SDGs達成のための自治体戦略をデザインする
講師：高木 超氏　慶應義塾大学政策・メディア研究科特任助教、SDGs-SWY共同代表
実践報告者：高澤 千絵氏　石川県志賀町地域おこし協力隊

住民主体のまちづくりを支えるCPSの活動から学ぶ大学専門人材のためのワークショップ

報告

日　時：2019年10月30日（水）13時～15時　会場：稲盛記念会館２Ｆ会議室
講　師：飯迫 八千代 氏　ポートランド州立大学公共サービス研究・実践センター（CPS）国際プログラムマネジャー

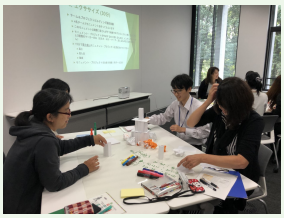
当センターでは、CPSが蓄積を持つ調査・研究・教育のノウハウやSD(Staff　Development)について、相互協力や交流を始めました（代表者：川勝健志公共政策学部教授）。その手始めに、CPSから教職員を招聘し、大学の専門職員向けのワークショップを開催しました。

WSでは、①理念：CPSがどのような考え方で地域と関与（エンゲージメント：Engagement）しているのか　②体制：地域とのエンゲージメントや学内調整を行う専門人材（AP：アカデミック・プロフェッショナル）の役割　③手法：チームビルディングの疑似体験WS（組織開発のWS）の3点について、理解を深める機会として設計しました。

アイスブレーク（他己紹介）から始まり簡単なレクチャーの後、３つのチームに分かれて15分間でひとつの作品をつくり、最後にCPSの西芝雅美教授からのコメントを頂きました。

参加者からは、「座って話を聞くだけではなく、グループでのモニュメント作りなど、自律的に動くことが必要な研修に参加し、有意義な時間であった」「普段つながることができない方と知り合うことが出来、今後つまずいたときに心強い同志を持つことができた」「プロジェクトの開始には事前の目的共有が必要であることが分かった」「話すことだけでなく聴き合うことが重要だと感じた」との感想が挙げられました。

本企画は初めてということもあり相互に探りの状況でありましたが、学外（地域）と学内での連携という２つの側面から、「立場が異なる関係者間でいかに良質な関係性を構築するのか」、「地域との連携を通じて、いかに新しい価値をつくりだすのか」という問いに対して、学び合う機会を提供できたと感じました。



ワークショップの様子